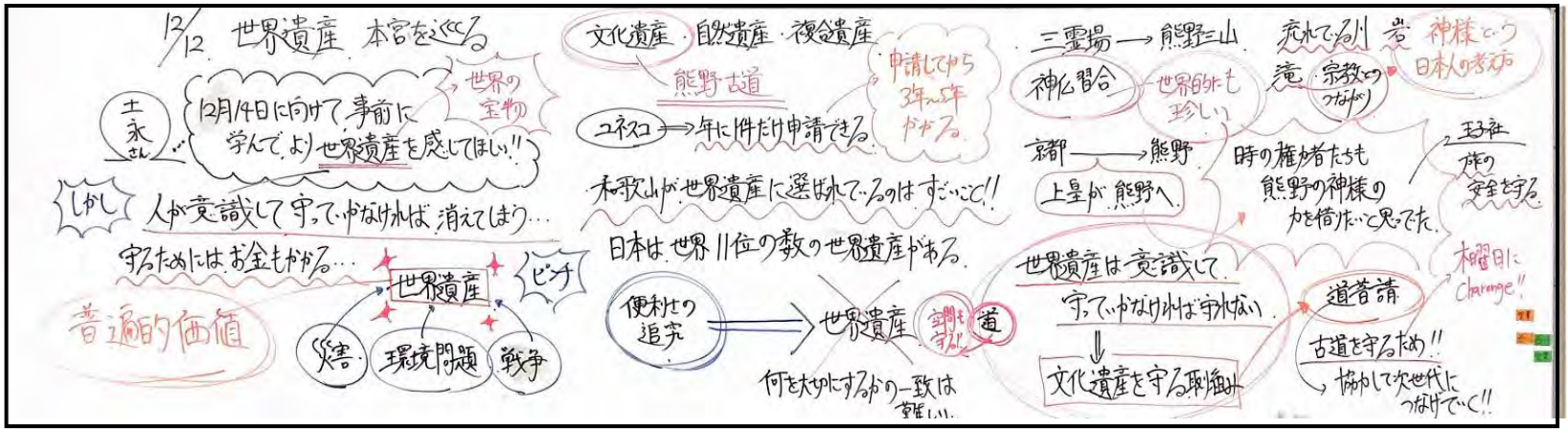


実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山大学教育学部附属小学校	南 正樹
学校所在地		
〒 640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号 Tel (073) 422-6105 fax(073)436-6470		
担当者名	役職名・担当教科	
西川 恭矢	教諭・第6学年A組担任	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、和歌山城や県立近代美術館・博物館に隣接し、豊かな文化・自然環境を整えた市内文教地区に位置する。明治8年に従来の岡山小学校の名を改め、附属小学校の母体である和歌山県師範学校が開校し、その翌年に附属小学校が創設された。現在の在籍児童は421名、学級数は16学級となっている。</p> <p>大学教育学部の附属小学校であるため「先導的な教育の研究・実践」「教育実習の運営と指導」「地方教育への協力」といった使命を担っている。今年度は研究主題を「生徒エージェンシーの発揮に向けた各教科からの接近」とし、これからの社会に生きて働く資質・能力の育成に取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年6年生28名	6名 職員2名	市立博物館・和歌山県世界遺産センター
実践研究テーマ		
歴史を体感し、地域社会の一員としての自覚をもつ子どもの育成—ヒトモノコトと繋がる学びを通して—		
実践教科等名	単元名	
社会科・総合学習	世界に誇れる和歌山の歴史 6A「熊野古道の魅力」発信プロジェクト	
<p>〔キーワード〕 世界遺産教育 地域学習 問題解決能力 情報活用能力 ESD（持続発展教育）</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の世界遺産について調べる活動や熊野古道における現地学習を通して、歴史について知り、世界遺産は多くの方々の思いによって支えられ、守られていることを理解する。（知識及び技能） ・世界遺産を体感し、より詳しく知るという目的をもって活動に参加し、現地学習で聞きたいことを質問事項として整理し、インタビューをしたり、必要な写真を撮影したりしてまとめ学習に必要な情報を集める。（思考力、判断力、表現力等） ・これまでの自分たちの活動や各施設の講師先生方に教えていただいた情報をもとにして、世界遺産の魅力についてまとめ、キャッチコピーや新聞等で表現する。（思考力、判断力、表現力等） ・和歌山県にある世界遺産を伝える活動について振り返り、各施設の講師先生や地域の方々によって活動が支えられてきたことに気づき、これからも和歌山の世界遺産を守るためにできることを続けていこうとする。（学びに向かう力、人間性等） 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 30 時間 （ 「世界に誇れる和歌山の歴史 6A「熊野古道の魅力」発信プロジェクト」 8 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>(1) 和歌山市立博物館 …和歌山の歴史に関する資料提供 フィールドワーク学習助言</p> <p>(2) 和歌山県世界遺産センター …世界遺産入門出前授業 現地フィールドワーク学習</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	① 世界遺産に対してもっているイメージを出し合う。 ② 和歌山県にある世界遺産について予想し、調べ活動を行う。	・世界遺産に対するイメージをもてるよう、学級文庫に世界遺産に関連する書籍を置く。 ・1人1台タブレットを活用しながら、調べ学習に取り組めるようにする。	(学びに向かう力, 人間性等) ワークシート・観察
2	③ 和歌山県にある世界遺産についてまとめ、全体で共有する。 ④ 和歌山県の世界遺産の特色について話し合う。	・ロイロノートを活用し、音声や画像、動画等を用いて発表できるようにする。 ・他県(他国)にある世界遺産を提示し、和歌山の世界遺産と比較できるようにする。	(思考力, 判断力, 表現力) ワークシート・観察
3	⑤ 世界遺産「熊野古道」の歴史について調べ活動を行う。 ⑥ なぜ、熊野古道が世界遺産に登録されているのか考えを出し合う。	・国語科「柿山伏」社会科「平清盛の熊野詣」と関連付け、調べ活動に取り組ませる。 ・熊野詣が当時の人々にとってどのような意味をもっていたかを中心に話し合いを進める。	(思考力, 判断力, 表現力) ワークシート・観察
4	⑦ 世界遺産センターの方にGTとして来校いただき、世界遺産門を受講する。 ⑧ 世界遺産マスターの方々のガイドと共に現地学習を行う。	・既習を生かしながら学べるよう、調べ活動で活用したノートを持参させる。 ・既習における疑問を全体で共有し、現地学習の目的を明確にもてるようにする。	(知識及び技能) ワークシート (思考力, 判断力, 表現力) ワークシート・観察
5	⑨ 世界遺産を守る取り組みを進めている方々の活動について調べる。 ⑩ 世界遺産を守るためにできることを考え、ポスター等へまとめる。	・1人1台タブレットを活用しながら、調べ学習に取り組めるようにする。 ・他クラスへの発表を通して推敲をし、より考えが伝わる書き表し方について考えさせる。	(学びに向かう力, 人間性等) ワークシート・観察 (思考力, 判断力, 表現力) ワークシート
<p>〔单元学習の成果と課題〕 体験活動を実施する前に世界遺産センターの方にお越しいただき、世界遺産のことや和歌山県の取り組み等について詳細に教えていただいた。実際に活動をしている方からの言葉には迫力があり、授業後の振り返りには「世界遺産を守るために取り組んでいる人の思いが知れて、フィールドワークがすごく楽しみになった。」「やっぱり人の思いがなければ世界遺産は守れないと思った。」等の記述が見られた。また、本単元での学習を他教科の学習と関連付けることで、郷土にある世界遺産に強い関心をもたせることができた。社会科の学習で上皇たちが盛んに熊野詣を行っていたことを学んだ子供たちからは「自分たちが暮らす和歌山が歴史上の人たちにとって大切な場所であったことがうれしい。」といった発言が聞かれた。このように歴史上の人物と自分たちの生活を重ね、考えをもつ姿は学習指導要領に示されている「歴史から学ぶ姿」であると言えるのではないかと。課題としては、子供たちの思いを焦点化することに時間がかかり過ぎてしまったことが挙げられる。世界遺産というテーマは様々な視点から学びを追究できるテーマであるため、単元当初に世界遺産センターの方にお越しいただき学習課題を明確にしていくことで、より学習の目的に迫る実践ができたと考える。</p>			
<p>〔世界遺産学習の効果〕 現地学習を終えた子供たちからは「世界遺産はただそこにあるのではなく、それを守るために活動している人がいることを知った。自分たちも少しだけ世界遺産を守るための取り組みができてうれしかった。」「実際に熊野古道を歩いてみて、昔の人がどんなことを思いながらそこを歩いていたかを想像することができた。熊野大社が見えたときは嬉しかった」等の意見が出された。どちらの意見も現地学習を行ったからこそその気づきであるといえる。教室での学びに加え、実際の体験活動を経験した子供たちは、世界遺産に込められた様々な思いを感じ取り、これからも郷土の歴史を受け継ぎ、後世に残すために自ら進んで努力しようとする思いを高めることができたと考える。</p>			
<p>〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕</p> <p>他国にある世界遺産に着目させることで、独自の文化や自然の多様性を理解し、尊重していく心情を育てていけると考える。日本人にとって世界遺産がどのようなものであるかを考えさせると同時に、そのような思いは外国の方々にとっても共通であるということを実感させたい。グローバルな視点を取り入れることで、世界遺産に対する理解を深めることができると考える。</p>			

様式 2



↑ 事前学習の記録



* 現地学習後の子供の振り返り

熊野古道に行ったことがなかったのでとてもいい経験になりました。まず土永さんが火曜日に来てくれて熊野古道についていろいろ説明してくれました。そのとき私たちも熊野古道を歩きやすくするために土を運んで固めるという作業を知りました。実際に土が入った袋はすごく重くて、坂を何回も何回も上がる作業はすごく大変でした。でも出来上がった道を見ると「この道を私たちが作ったんだー」という思いがして少し誇らしげになりました。その後はグループに分かれて現地学習をしました。山の上から見た鳥居の景色は絶景でした。また世界遺産を歩いてみたいと思いました。

世界遺産でもある熊野古道では歩道を守るために土を運んだり森の奥まで友達と歩いたりしたことが楽しかったです。世界遺産マスターの方がいろんなことを教えてくれたり友達と気づいたことを伝え合いながら楽しく山を登ったりすることができたのですごくいい経験になりました。また、世界遺産センターの方が世界遺産のことをくわしく教えてくれたのですごくよくわかりました。あまり気にしていなかった世界遺産についても興味が出てきました。最後に神社に行った時、世界遺産マスターが八咫鳥のことも教えてくれました。八咫鳥はサッカーの日本代表とも関係があるので特に心に残りました。